

超深海探査母船の建造準備中！

我が国は、排他的経済水域（EEZ）の面積が世界第6位であるとともに、その約半分が水深4,000m以深を占め、5,000m以深の体積は世界第1位を誇る深海大国です。令和7年8月に科学技術・学術審議会の海洋開発分科会において提言された「深海・海溝域の探査・採取プラットフォームについて（提言）」では、深海大国である我が国は、防災、海洋状況把握（MDA）、海底鉱物資源、海洋環境、生物等の分野において引き続き世界をリードする研究開発を実施するため、海洋の安全保障及び持続可能な海洋の実現に資する深海・海溝域の探査・採取プラットフォームを構築することが求められています。令和8年7月に閣議決定された「日本成長戦略」においても、超深海探査母船の建造等により海底資源の開発体制の基盤となる基礎研究体制を確実なものとし、深海探査能力の維持・向上を図るとされているところです。これらを踏まえ、JAMSTECでは、令和8年度より超深海探査母船の建造に向けた基本設計等の準備を開始しています。

超深海探査母船のイメージ・特徴

イメージ図



主要目	超深海探査母船
全長	110m 程度
幅	19m 程度
深さ（喫水）	9.0（6.3）m 程度
国際総トン数	7,000トン未満
定員	70名程度
搭載探査機等	有人潜水調査船「しんかい6500」 自律型無人探査機「うらしま8000」 その他の各種AUV （Autonomous Underwater Vehicle） 6500m級ROV （Remotely Operated Vehicle） フルデプス無人探査試料採取システム （開発中） ASV（開発中） （Autonomous Surface Vehicle）

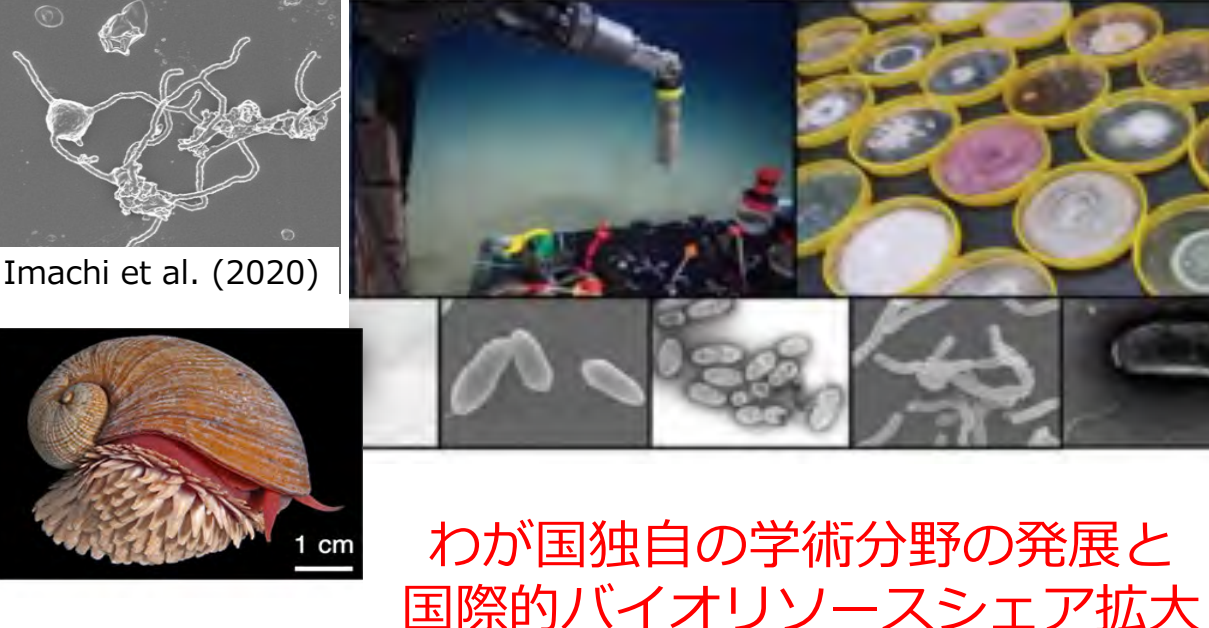
※1 HOV（Human Occupied Vehicle：有人潜水調査船）
※2 CCS（Carbon dioxide Capture and Storage：二酸化炭素回収・貯留）

本船の特徴

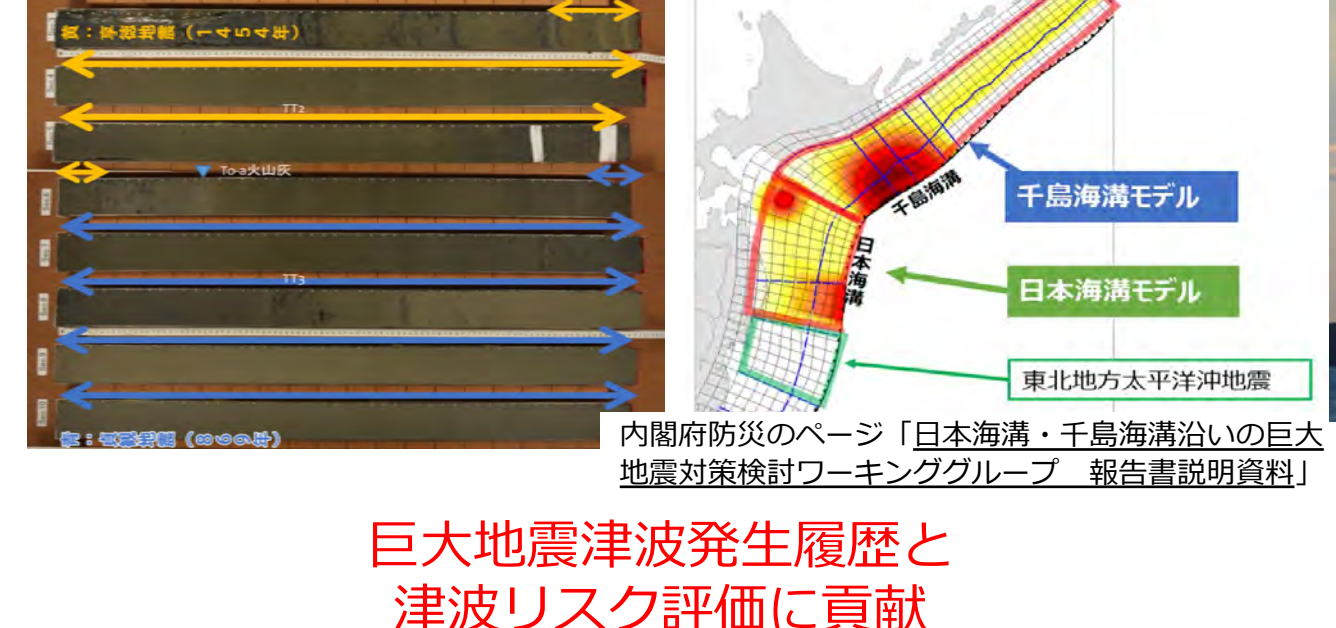
- AUVで広範囲を探索し、特異点を見つけ、ROVやHOV（※1）等によりピンポイントでの調査／サンプル採取を行います
- 省人化、自動化技術も取り入れつつ、あらゆる水深からのサンプルリターンを可能にする観測機器、探査機の同時搭載・運用機能を備えます
- 陸上電源供給・CCS（※2）等による環境影響低減、ユニバーサルデザインの採用による乗船者の居住性への配慮・研究の利便性向上等を行います

本船の活躍が想定される研究・社会課題

生命進化・機能・バイオリソース



地震・防災研究



海域火山研究



- 本船のピンポイント調査＆サンプルリターン能力を駆使して、堆積物コア試料、火山噴出物、マンガンクラスト、チムニー、生物、海ごみ、海水等の採取を行います

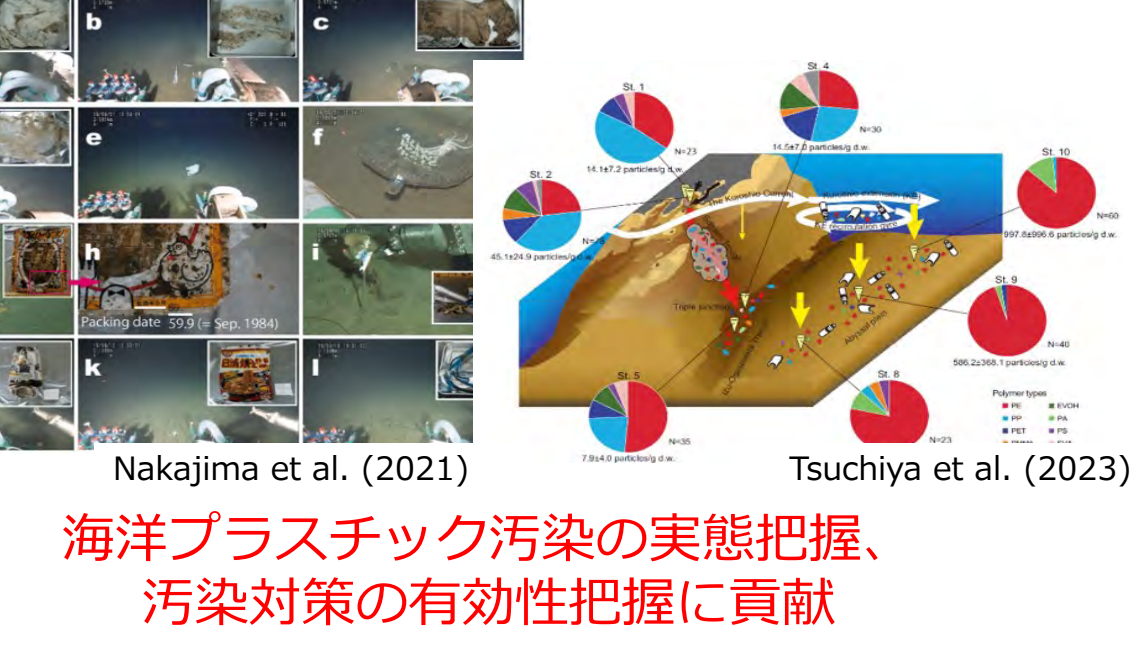
海底資源成因研究



深海生態系保全

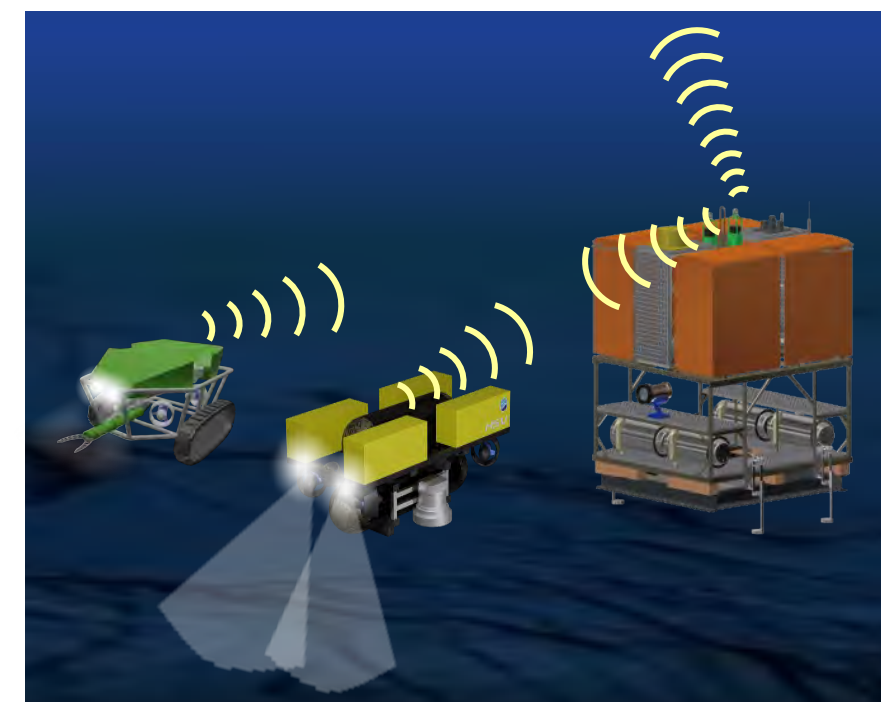
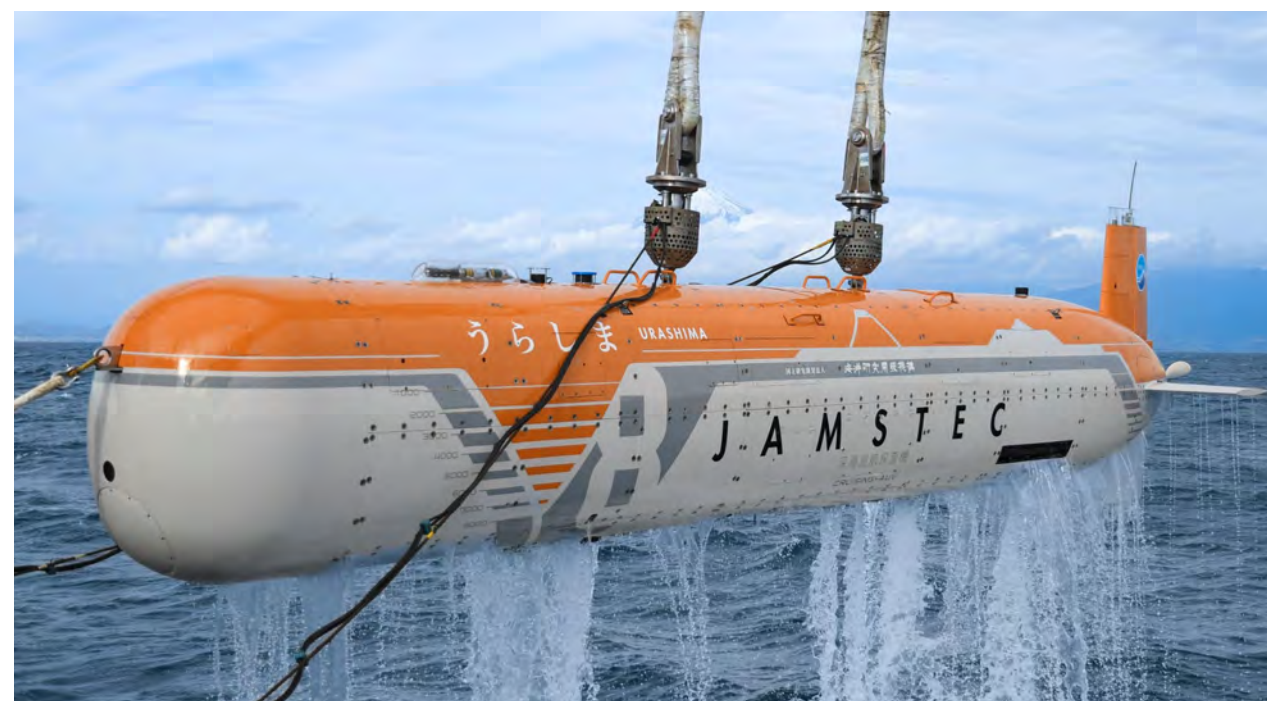


海洋プラスチック実態解明



- AUVによる広範囲の調査により、高解像度な海底地形＆地下構造等の探査を行います

搭載予定の探査機



そのほか、JAMSTEC内外の多様な探査機や調査・観測機器を搭載・運用できるように検討中です。民間の観測機器の洋上実験船としての運用も想定しています。